



# ツキノワグマにご注意ください！！

## クマと会わない方法・会ってしまった場合の対応法



宮城県には様々な野生鳥獣が生息しています。中でもツキノワグマは最大のほ乳類であり、ツキノワグマが生活していることは、自然環境の豊かさの現れです。

ツキノワグマは普段はとてもおとなしい動物ですが、最近では、アウトドアレジャーのブーム等によって入山者が多くなり、不幸な事故が多く発生しています。

ツキノワグマと共存し、ツキノワグマとの不幸な事故をなくしましょう。

### ツキノワグマとは？

体長：100～160cm  
 体重：50～130kg  
 聴力・嗅覚：非常によい  
 走る速度：人間よりずっと速い  
 運動能力：水泳・木登りが得意  
 食物：ブナの実・ドングリ類、  
 木の実、山菜、昆虫  
 生態：冬期間冬眠を行い、雪解け頃目覚めて、  
 活動を始める。その行動圏は40km<sup>2</sup>  
 （通常範囲の場合）と言われているが、食  
 物の豊凶により異なる。通常3～4歳で繁  
 殖可能となり、1～3匹の子グマを産む。  
 子グマは2年ほどは母グマと一緒に行動する。  
 活動時間帯は朝夕、黎明薄暮時

### クマに会わないためには！？

1 出没情報に注意しよう！  
 山に出掛けるときには、事前に新聞・ラジオ等のマスコミ情報や地元市町村等からクマの出没情報を入手し、危険なところには近づかないことが大事です。

2 クマに自分の存在を知らせよう！  
 山にはクマを始め多くの野生生物が生息しています。動物の生息場所に入らせてもらうんだという気持ちを持つと共に「自分」の存在をクマや他の動物に分かってもらいましょう。

そのためには・・・複数人数で入山し、熊鈴やラジオを携帯し音を鳴らしたり、大声でしゃべりながら歩きましょう。

クマが人間の存在に気がつかず、バツリ出くわす状況が一番危険です。また、山菜採り等で夢中になり道からそれて、ヤブに入ること、とても危険です。

3 活動時間や気象状況に気をつけよう！  
 クマの活動時間帯は、朝夕・黎明薄暮時です。この時間帯を避けて行動してください。（天気が悪くて薄暗い日は、昼間も活動することがあります。）

また、霧・風のある気象状況や沢沿いは、クマも注意力が散漫になります。注意して活動してください。

4 クマの痕跡に気をつける。  
 山を歩いていると、木の樹皮にクマの爪痕や、フン、足跡、餌を採るために作った棚のようなもの（クマ棚）を見かけるときがあります。  
 このようなものを見つけたら、近くにクマがいると思って行動し場合によっては引き返してください。

5 生ゴミ等は放置せず、持ち帰ろう！  
 最近のクマは入山者が山に捨ててくる、ゴミ等を食べるようになっています。ゴミを食べるようになったクマは、人間が食べ物を持っていると思い、故意に人間に近づくようになり、周辺住民や後から入山する人を危険な状態に陥れることとなります。  
 ゴミは自分で持ち帰るようにし、キャンプの際の食料等も野外やテント内に放置せず、クマがとれないような場所に保管しましょう。

### 万が一クマに会ってしまったら

1 そっと立ち去ろう  
 遠くにいるクマなら心配ないので、そっと立ち去りましょう。

2 騒がない  
 大声をあげたり、石や棒等を投げつけることは、クマをいたずらに興奮させるだけです。まず、落ち着いてください。

3 そっとさがる  
 クマとの距離を保つことで、お互いの興奮を鎮める効果があります。慌てて逃げ出したりせず、クマに背中を見せずに向き合ったまま、ゆっくりと後退してください。

4 子グマに出会ったら  
 子グマが可愛いからといって絶対に近づいてはいけません。近くに必ず母グマがいます。母グマは子グマに危害を加える可能性のあるものに攻撃を仕掛けます。

### もし、クマが攻撃してきたら

1 抵抗をしない  
 腹這いになり、両手で首の後ろをガードします。ザックを背負っていれば背中を守られ、一番大事な頭部や首が守られます。  
 クマの攻撃は最初の一撃で終わり、その後人間から逃げていきます。

2 クマ撃退スプレーを使用する  
 アウトドアショップではトウガラシの主成分であるカプサイシンを噴出させる「クマ撃退スプレー」が販売されています。しかし、これの有効距離は4～5mで噴射時間は4～5秒です。クマが有効な射程距離に入るのを待って顔面に命中させることが必要です。また、スプレーを過信せず、まずクマに会わないことが大事です。



爪痕 クマ棚

フン

足跡

ここに書いた方法どおりにすれば必ず大丈夫とはいえません。研究や経験からとりあえず有効であるという方法です。クマに出会わないようにするのが一番大切です。